

退職教員からの声

2024年3月に退職された教員からのメッセージをお届けします。



小柳 春一郎 (こやなぎ・しゅんいちろう)
法学部法律学科・教授

私は、獨協大学に1995年から29年間お世話になりました。獨協大学は、大変充実した研究教育の場で、学生の皆様の勉学ぶりからも刺激を受けました。感謝申し上げます。獨協大学と在学・卒業生の皆様のますますの発展を祈っております。



小野 秀誠 (おの・しゅうせい)
法学部法律学科・教授

授業では、リーディング判例のような同じ問題でも、年度によって参加者の対応にはかなりの差があり、年月や社会の相違を感じさせるものがありました。ぜひ身近なところから、大きな変化を発見してください。皆さまの発展を心よりお祈りします。



石井 保雄 (いしい・やすお)
法学部法律学科・教授

本学で大学教師生活の過半を過ごしたことを幸いに思います。創立から60年が経過するなかで、本学には、全学教授会制度など独自の文化・学風が育ち、根付いていると思います。それらが今後も維持され、発展することを願っています。



福永 文夫 (ふくなが・ふみお)
法学部総合政策学科・教授

2001年獨協大学に赴任。初めて兵庫県から出ました。この1月にゼミのOBたち100人と会い、彼ら彼女らとこの23年を振り返りました。震災もありましたが、結構楽しい日々でした。有難うございました。大学とみなさんに良い明日を。



原 成吉 (はら・しげよし)
外国語学部英語学科・教授

獨協大学という共同体で39年、学部時代と含めると43年にわたって育てていただきました。多くの諸先輩、同僚の先生が、そして職員のみなさまに支えられ、無事に定年を迎えることができました。これからは終わらぬ山河に、サカナとボエジーを探しにゆきます。たくさんの思い出をありがとうございました。母校のさらなるご発展を心よりお祈りしております。



佐藤 勤治 (さと・かんじ)
国際教養学部言語文化学科・教授

30年以上前、大学教育においてスペイン語がやっと第二外国語として認められ始めた時期に着任しました。嬉しいことに、今ではスペイン語圏で多くの獨協卒業生が活躍しています。スペイン語圏はまだ未知で魅力的です。一層、目を向けていただけるよう期待しています。



山本 英政 (やまもと・ひでまさ)
国際教養学部言語文化学科・教授

この大学で多くの学生たちと出会い、ときに思わぬ気付きにはとさせられることがありました。時代の微妙な変化を肌で感じ取れたことはわたしにとって貴重な財産となっています。どうもありがとうございました。



山田 洋 (やまだ・ひろし)
法学部法律学科・教授

当然のことながら、定年退職には、やや複雑な感情が伴います。しかし、コロナの期間を含めて、わずか6年間の在職でしたが、教職員や学生の皆様の温かさによって、誠に充実した教員生活を過ごすことができました。この機会に、皆様方のご活躍と大学のご発展をお祈りさせていただきます。



山路 朝彦 (やまじ・あさひこ)
外国語学部ドイツ語学科・教授

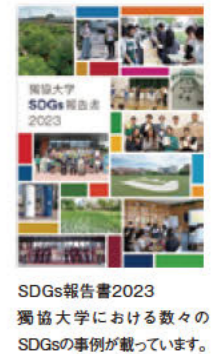
学生の皆さんへ: 社会に出て振り返ると、学生時代の4年間がいかに貴重なものかが分かります。今の時間を大切に。
教職員の皆さんへ: 良い同僚の先生方、良い職員の方々に恵まれ、仕事に携わらせていただきました。皆さま、本当にありがとうございました。

DOKKYO SDGs Sustainable Development Goals

獨協大学のSDGsと省エネ・省CO₂

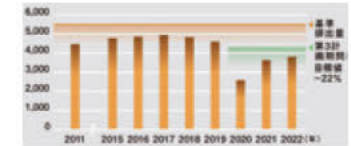
獨協大学は「埼玉県SDGsパートナー」への登録(2021年3月)を機に、持続可能な世界を実現するための17のゴールと169のターゲット達成に向けた教育・研究を推進しています。「埼玉県SDGsパートナー」における宣言書では、学則第1条の「社会の要求する学術の理論および応用を研究、教授することによって人間を形成し、あわせて獨協学園の伝統である外国語教育を重視して今後の複雑な国内および国際情勢に対処できる実践的な独立の人格を育成する」を取組方針としています。これに従い獨協大学では、SDGsの達成を担う人材の輩出に貢献する実践的な独立の人格育成をしています。また、宣言書の「環境」「社会」「経済」の3側面からの重点的な取組と指標のうち、「環境」に関する重点的な取組として「CO₂排出量削減」を掲げ、3年後に向けた指標としては「24%のCO₂排出量削減」、2030年に向けた指標としては「26%のCO₂排出量削減」としています。2022年度の31%のCO₂排出量削減を達成していますが、2021年のCOP26で日本は、2030年までに2013年比でCO₂排出量46%削減、2050年には実質ゼロと声明しており、楽観視は全くできない状況です。学生の皆さんにも使用していない教室の消灯や空調のOFF、気候のいい中間期の窓開け換気や服装による体温調整等、省エネ省CO₂対策の実践をお願いします。

分野	SDGs達成に向けた重点的な取組	目標
環境	「CO ₂ 排出削減」 「環境」の取組のため、CO ₂ 排出量を削減する。 ＜1掲げ目標＞2022年の数値＜CO ₂ 排出量＞31%削減 ＜取組開始3年後に向けた指標＞CO ₂ 排出量 24%減 ＜2030年に向けた指標＞CO ₂ 排出量 24%減	＜2030年に向けた指標＞ CO ₂ 削減 26%減 ＜取組開始3年後に向けた指標＞ CO ₂ 削減 24%減
社会	「SDGs関連科目履修者数の増加」 SDGs人材を輩出するため、SDGs関連のキーワードを含む科目履修者数を増やす。 ＜1掲げ目標＞2022年の数値＜SDGs関連科目履修者数＞6,693人	＜2030年に向けた指標＞ 8,000人 ＜取組開始3年後に向けた指標＞ 7,000人
経済	「教育の機会を基盤とした経済的価値の創出」 教育の機会を基盤とする、地域社会事業や特別支援学校による教育活動の実施、地域で役立つ人材の育成、学生が創出した商品の販売活動などを通じて、地域社会の活性化に貢献する。 ＜1掲げ目標＞2022年の数値＜上記活動件数＞13件	＜2030年に向けた指標＞ 25件 ＜取組開始3年後に向けた指標＞ 20件



SDGs報告書2023
獨協大学における数々のSDGsの事例が載っています。

「埼玉県SDGsパートナーシップ」における獨協大学の宣言書
※詳細はホームページをご覧ください。



獨協大学のCO₂削減目標と排出量の年間推移 (単位:t-CO₂)



2020年からコロナ禍の影響でCO₂排出量は下がっていましたが、徐々に上がり始めています。今後の削減義務の強化に向け、学生の皆さんのご協力が不可欠です。

獨協大学コミュニティスクエアはサステナブル建築物等先導事業(省CO₂先導型)に採択され、補助金を受けています。また、建築環境総合性能評価システムCASBEEのSクラス(最高位)の取得など、省エネ・省CO₂に優れた建物として認められています。

獨協大学の防災

～安心安全なキャンパスライフのために

安否確認サービス利用登録しましたか?

本学では、災害時に学生の安全状況を確認するため、セコム「安否確認サービス」を導入しています。災害時に自身の状況を報告できるよう、利用登録を行ってください。

■ 利用登録の手順(スマートフォンの場合)

- 1.e-革新サービスへログイン
https://www.e-kakushin.com/login/
- 2.本人情報の変更
画面右上の「メニュー」→「アカウント管理」→「パスワード変更」から初期パスワードを変更後、図1のページ最下部の「本人情報を変更する」を押し、必要な情報登録、修正を行ってください。特に図2の3項目については、各人により追加の登録をお願いします。

ログインに必要な企業コード、ID、パスワードは獨協大学Webメールにお送りしています。

図1

本人情報

本人情報の変更を行うには、「本人情報を変更する」を押してください。

基本情報

ご利用者名
所属 太郎
ご利用者名(カナ)
ドクキョウ タロウ
ユーザーID
19641022

本人情報を変更する

図2

居住地(都道府県)

選択してください

メールアドレス

電話番号1

利用登録、利用方法の詳細はPorTaIIダウンロードセンターで公開しています。
PorTaII > ダウンロードセンター > 防災 > セコム安否確認サービス
問い合わせ先: 総務課 TEL. 048-946-1785

QRコードからe-革新サービスのログイン画面にアクセス!

防災マニュアル
安否確認サービスの利用方法、学内避難経路など役立つ情報を携行サイズの「防災マニュアル」に掲載しています。

毎年10月に防災訓練を実施します
2024年10月23日(水)15:05～
※3限目授業終了10分前から避難放送開始